

ま え が き

当教育研究所の学習に関する研究もずいぶん久しくなる。国語・社会・数学・理科などの教科については、早くから学習指導に関する研究が個々に行なわれていたが、それらの研究の積み重ねを経て、昭和34年あらためて「学力向上のための学習指導の改善」をテーマとして、全所員の共同研究体制をととのえ、主として小・中学校の全教科にわたる学力と学習指導に関する5か年計画の研究を始めた。その最初の年は、過去5か年における9教科の高校進学学力検査問題の検討を行ない、学習指導上の問題点を明らかにし、研究紀要第24集9分冊として刊行した。また、文部省の全国学力調査を辺地の小・中学校に一斉に行ない、その考察は「へき地児童生徒の学力」と題して研究紀要第26集にまとめて刊行した。そのころから学力と学習指導の研究は、当研究所の最も中心的な研究課題となった。

学習指導によってどのような学力を形成しようとするのか、学力をどのように考えるか、これが当時われわれ所員の間で論議の中心になっていた。学力の向上ということは、単に多くの知識を得ることではなく、人間の能力を培い育てる教育の本質に根ざしたものでなければならぬ。機能としての、いわば「いきてはたらく学力」でなければならぬ。こうした学力をどのようにして形成するかが当面の課題である。教材に立ち向かってこれを理解してゆく、子どもの学習の中核である理解過程や思考過程を分析し、そこに「いきてはたらく学力」を培う指導の契機を発見しようとしたのである。

しかし、この難問題の解決は、地方の一教育研究所のよくするところでないので、全国における教育研究所の共同研究としてとりあげることを本県は強力に提案した。幸いにも昭和36年から全国教育研究所連盟では、それまでの勤労青年教育に関する共同研究をおわり、この児童生徒の学力と学習指導の問題を全国的な共同研究として3か年間とり組むこととなった。われわれは全面的にこれに参加し、幹事県としてその推進に努力した。こうして当研究所の第一次5か年研究は、その最後の3か年を、全国教育研究所の共同研究と歩みをともにしてきたのである。この間における研究成果は、毎年度末にまとめ、15冊の研究紀要として刊行した。また全国共同研究の成果は学習指導研究シリーズ12冊として刊行されたが、当研究所員もその執筆に当たった。

さて、この第一次5か年研究の過程で、子どもの思考過程や理解過程の様相を詳しくみてゆくうちに、子どものひとりひとりの思考のはたらきや理解のしかたには個人的な差異があり、また、それは個人の情緒的な面や意志的な面、広くいって、そのパーソナリティに根元すると

ころの大きいことがわかってきたのである。こうした子どもの個人的な差異や、もしくはパーソナリティといった個人の内面的なものに触れて、はじめて学習指導というものが、具体的にくわしいものになると思われるのである。こうした方向への追究を旨として、昭和39年から3か年計画で、学力向上のための学習指導改善に関する第二次の研究を始めることにした。

昨年度はその第1年目の研究として、子どもの個性的なもの、もしくは態度的なものを、どのようにしてとらえるかを問題とし、またそれが学習とどのように関係するかをみてきたが、今年度はその第2年目として、そうした個性的なもの、もしくは態度的なものが、個々の子どもにあらわれている様相や、実際の学習の場で展開している様相をとらえ、学習指導をより具体的なものにするための基礎的資料を得ることに努めた。

この紀要に集録したものは社会、体育における学習態度の研究である。

社会科における学習態度に関する研究では、歴史事象に対する見方・考え方・感じ方の様態とこれを深める指導の条件を究明することに努めた。第1年次の研究では中学2年生を対象にした事例研究によって、見方・考え方の問題点を明らかにしたが、第2年次の研究はさらに理論的な考察を深め、調査方法をくふうし、小学校6年生と中学校2年生の見方・考え方の傾向をより明らかにするとともに、これを深める指導の条件について、授業研究をとおして究明したものである。

体育の研究では、運動学習における中核的なねらいである運動技能の形成過程に重要な影響を及ぼす学習態度のはたらきを重視し、その形成と変容に関する研究を学習指導と関連づけて行なった。第1年次の研究では、学習態度の様態把握と運動技能の形成過程に影響を及ぼす要因について調査と実験を行なったが、第2年次の研究は、実際の場における学習態度の変容をもたらす諸条件を究明するねらいをもって、実証的な研究を行なった結果をまとめたものである。

なお、これらの研究は、それぞれ研究協力校の絶大な協力のもとに行なったもので、学校長をはじめ関係の教職員各位、ならびに児童生徒に対しても、心から感謝の意を表するしだいである。

昭和41年3月23日

新潟県立教育研究所長 小林 正直